

令和元年度
鯨資源調査等対策委託事業のうち鯨資源調査事業（北半球鯨類目視調査）
成果報告書

【受託者】

住 所 東京都中央区豊海町4番5号

氏 名 一般財団法人 日本鯨類研究所

1. 目的

本調査の目的は、主に北半球産鯨類の分布、豊度解析及び系統群判別に必要な以下の情報の収集である。今年度は、IWC/科学委員会(SC)の調査研究要請に基づいた課題を優先事項として、国際捕鯨委員会（IWC）と日本の共同調査である「IWC/POWER (Pacific Ocean Whale and Ecosystem Research)」航海において、ライントランセクト方法を用いた目視調査、バイオプシーサンプル採取及び自然標識撮影実験などを実施した。また、今年度は、米国調査員が持ち込む音響機器を使用した鯨類鳴音録音ならびにセミクジラの位置特定作業等を実施した。なお、本調査は、IWC が約 30 年間、南半球で確立した IWC/IDCR-SOWER 調査の目視調査方法を踏襲している。

- 1) イワシクジラ、ザトウクジラならびにコククジラの詳細資源評価に関する情報
- 2) 希少種である東太平洋のセミクジラ資源に関する情報
- 3) ナガスクジラ等の分布北限に関する情報
- 4) 現在の資源状況の知見が不足している鯨類資源（シロナガスクジラ等）に関する情報

2. 調査体制

本調査は、水産庁長官が一般財団法人日本鯨類研究所に委託し、それに基づいて第二勇新丸(747トン、共同船舶株式会社所有)を用船して実施した。

3. 調査期間

7月6日	塩釜出港
7月18日	調査開始
9月8日	調査終了
9月28日	塩釜入港

5. 調査海域

調査海域は、北緯 49 度以北、北緯 60 度以南、西経 170 度以東、西経 135 度以西のアラスカ湾海域とした。

6. 外国政府の許可

米国政府より、第二勇新丸に対して、同国 200 浬内における調査許可（鯨類目視調査）が発給された。また、米国調査員の所持する米国許可証によって、同国 200 浬内の鯨類への接近（バイオペシー採取を含む）及び音響録音機器の使用に関する許可が発給された。

7. 調査結果

目視調査（通過方式及び独立観察者方式）の総探索努力量は 2,476.2 浬であり、全鯨類の発見群頭数は 740 群 1,921 頭であった。

自然標識の撮影はシロナガスクジラ 16 頭、ナガスクジラ 51 頭、ザトウクジラ 30 頭、コククジラ 6 頭、シャチ 19 頭について行った。

バイオペシーサンプルはシロナガスクジラ 12 頭、ナガスクジラ 45 頭、イワシクジラ 4 頭、ザトウクジラ 12 頭、コククジラ 2 頭から採取した。

8. 調査記録等の保管

全ての記録類は調査終了後、一般財団法人日本鯨類研究所資源管理部門でデータ確認が行われ、保管される。また、本調査のデータは IWC 事務局へも提供される。バイオペシー標本は、IWC 標本を米国 NOAA/SWFSC が、日本の標本は一般財団法人日本鯨類研究所がそれぞれ保管する。調査結果は IWC 科学委員会等へ報告される。

表 1. 調査航海における種別発見群頭数及び調査実施頭数

鯨種	発見		自然標識撮影 (頭)	バイオプシー採取 (頭)
	群	頭		
シロナガスクジラ	19	21	16	12
ナガスクジラ	266	458	51	45
ナガスクジラらしい	20	30	0	0
イロシクジラ	26	43	0	4
イロシクジラらしい	2	3	0	0
ミンククジラ	6	6	0	0
ザトウクジラ	173	402	30	12
ザトウクジラらしい	7	15	0	0
コククジラ	6	15	6	2
マッコウクジラ	50	61	0	0
ツチクジラ	2	37	0	0
アカボウクジラ	3	5	0	0
種不明アカボウクジラ科鯨類	6	8	0	0
シャチ	55	269	19	0
カマイルカ	1	4	0	0
ネズミイルカ	1	1	0	0
イシイルカ型イシイルカ	89	518	0	0
型不明イシイルカ	5	20	0	0
種不明大型鯨類	2	2	0	0
種不明小型鯨類	1	3	0	0
合計	740	1,921	122	75